

学年

6年

これまでの取組に関する「成果」と「課題」

【成果】教科担任制を行うことで、教材研究に十分時間をかけた結果、児童の実態に合わせた授業展開を行うことができた。

【課題】主体的に取り組む態度の個人差が大きく、苦手なことや分からないことに対して主体的に、粘り強く取り組む力に課題がある。

学びに向かう力等に関する意識調査から（課題のある5項目）

・テストやドリルでまちがえたときは、似た問題を選んで、特に練習している。

・教科書を読みなどして、授業でこれから学習することの見通しをもつようにしている。

・教科書やノートを読み返すなどして、授業で学習したことを振り返るようにしている。

・自分が考えたことを積極的に他の人や先生に伝えようとしている。

・文章を読んで理解したことや考えたことなどを他の人に説明している。

教科	観点別分析	教科ごとの課題	教科等ごとの指導方法等の改善策
国語	○知識・技能	○作文等で既習の漢字を使うことができないことや文の組み立てに関する知識の定着等に課題がある。 ○根拠をもって自分の考えを書いたり、深く読み取ったりすることに課題がある。 ○粘り強く課題に取り組んだり、自己の学びを振り返り、試行錯誤したりすること等に課題がある。	○家庭学習や四小タイム、漢字の小テストなどで知識の定着を図っていく。また、AIドリルを活用し、自分の課題に合った練習問題を選択しながら、取り組めるようにする。 ○ICT機器を活用し、根拠となる叙述を探したり、まとめたりする。また、他者と考えを共有したり、交流しあうことで自己の考えを広げたり、確かなものにしていく。 ○スモールステップでできたこと、分かったことを増やしていく。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
社会	○知識・技能	○基本的な知識の定着に課題がある。知識が点としての理解となっており、つながりで認識できている児童が少ない。 ○学習課題に対して、教科書、資料集から読み取ったことや調べたことをそのまま写し、ノートやタブレットにまとめている。内容を理解し、自らの考えと比較したり深めたりしている児童が少ない。 ◎歴史に対する関心が高い児童が多い傾向にあるが、差がある。国会や政治を自分事として捉え学習することが難しい。	○調べたことや考えたことを適切に図や表などに表したり、文章でまとめたりするなどの表現活動を設定する。その際に短い言葉や文でまとめることを意識させるとともに、大事な言葉に着目させながら情報を選択させる。 ○資料を比較・検討することで様々な情報を読み取ったり、疑問をもったりしたことを交流する時間を設定し、思考力の向上を図る。 ◎ICT機器を活用し、視聴覚資料等を用意したり、生活とのつながりを考えたりすることで関心を高める。 ◎テーマや課題について、役割分担をして調べ学習を行い、自分が調べた内容を教え合う学習形態を取り入れることで、自分で学習する力を身に付けられるように促す。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
算数	○知識・技能	○東京ベーシックドリル診断テストAでは、都平均の正答率が60％の割合が、本校6年生では、45％であり、理解の定着に課題がある。 ○答えにどのようにたどり着いたのか、どのように思考したのか表現しようとする力に課題がある。 ◎苦手な問題、わからない問題に対して、粘り強く取り組むことに課題がある。	○習熟が難しく自主学習だけで理解を進めていくのに、困難な場合があるため、週一回の算数朝学習の時間に算数ベーシックドリルを中心として、学習プリントに取り組ませ、定着度を高める。 ○ワークテストを行う前にAIドリルを用いてテストの練習をしている。また、テスト後にはAIドリルを用いて復習をすることで学習の定着を図る。 ○隣同士や小グループで考えを交流する時間を確保する。拡大投影機やタブレット端末、デジタル教科書といったICT機器も有効活用し、自分の考え方をアウトプットする機会を増やす。 ◎交流する時間を多く設け、「分からないまま」の時間を減らし、互いに教え合いや伝え合いの中で習得できるようにすることで、お互いの意欲を高めることにつなげる。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
理科	○知識・技能	○単元によって基本的な知識・技能の定着が不十分な児童がいる。 ○予想を自分の生活や経験から導き出す児童が限られている。 ○結果を記録する際、正確に記録できる児童が少ない。 ○結果と考察を分けて自分の言葉で的確な考察を書ける児童が少なく、結果と混同している児童が多い。 ◎実験がある単元への学習意欲は高いが、実験がない単元での意欲が低い。	○学習進度や理解度に応じたプリント等を準備し、復習に取り組ませて知識を定着させる。テスト前には、AIドリルを用いて復習に取り組ませる。 ○日常で起こる現象や生活に生かされている例を動画などで確認したり、演示実験を行ったりして予想を考えさせる。 ○思考したことを記述する時間の確保。 ○実験や観察でわかったことを数字や事象の比較を用いて考察する習慣を身に付けさせる。結果と考察の違いを意識させる。 ○考察が苦手な児童には、文例を用意したり、友達の書いた考察を参考にさせたりする。 ◎実験がない単元では、ICTを活用するなどして事象提示の仕方を工夫し、学習意欲をもたせる。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
体育	○知識・技能	○運動の行い方、ルールの理解に時間がかかる。 ○運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断したり、友達に伝えたりする力が課題である。 ○ICTの有効的な活用。 ◎授業見学者の学びの確保。	○運動が苦手な児童でも運動の行い方やルールが分かるように、ICTを活用して動きの動画を見せたり、ルールを言語化し掲示したりして、具体的に指導、支援していく。 ○運動や健康について、自己やチームでの課題を見付けたり、その課題を解決していく方法を考えたりするために、ICT機器を活用した対話的な学びを促していく。 ◎授業見学者には、「体育見学カード」を作り、友達のよいところを見付けたり、運動のポイントをまとめたりさせ、見学であったとしても学びを確保させていく。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
特別の教科 道徳	○知識・技能	○教材文を読んで考える際には、内容を受け入れ自分事として考えられる児童が比較的多いが、自分たちの生活に落とし込んで自分を見つめ深く考えることに関しては全体的に課題がある。 ○友達の意見を聞き、色々な見方、考え方、感じ方があることに気付き、それをもとに自分の考えを比較したり深めたりする児童が少ない。	○振り返りの場面では、自分のこれまで、学習を通して考えたこと、これからのに向けてという視点で考えさせるようにする。 ○授業の中で、意見交流の場を積極的に設定する。その際に、互いの考えの共通点、相違点を意識しながら聞くようにすることで、自分の考えを深めさせていきたい。 ○揺さぶり発問を入れ、多様な考え方を出させることで、道徳での正解は一つではないという意識をもたせる。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		

総合的な学習の時間	○知識・技能	○収集した内容を理解し、自分なりの言葉に直して相手に分かりやすく伝えることに課題がある。 ○ICTでの適切な情報を選択することに課題がある。	○発表対象に合った言葉遣いや表現方法を考えさせ、指導する。 ○友達の発表を聞き、真似したいところや自分も活用できると思えた表現を積極的に取り入れるように声を掛ける。 ○多くの情報の中から真偽を確かめながら取捨選択し、信用できる情報を活用させる。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
外国語	○知識・技能	○前学年までの基本的な英単度や文法が身に付いていない児童がいる。 ○英語の音と日本語の音の違いを感じているものの、英語を聞いて意味を類推することが難しい児童が多くいる。 ◎自分や身近な事柄を英語で表現したいという思いを多くの児童がもっているものの、自信をもって表現できない児童が多くいる。	○反復学習を多く取り入れたり、動詞や名詞を視覚化した教材を活用したりして、基礎的な知識や技能が定着するようにする。また、AIドリルを用いて単語や表現を繰り返し学ぶ機会を設ける。 ○リスニングを行う前に既習の表現を復習したり、選択肢の内容を日本語で確認したりする時間を設けたりして、意味を類推しながら英語を聞き取れるようにする。 ◎絵辞書やタブレット端末を活用したり、ローマ字や日本語で書いたものをALTや教員がその場で英訳したりすることで自分の思いを正確に伝えられるようにする。また、プレゼンテーションを行う前に何度も練習を行ったり、対話活動を通してアドバイスをし合う時間を設けたりして自信をもって英語を話せる環境を作る。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
音楽	○知識・技能	○リズム、音符の長さ、繰り返し等の記号を理解していない児童が多い。 ○どのように演奏したいのかという思いをもって演奏することが難しい。 ◎自分たちで手立てをを考えて活動することに苦手さがある。	○音楽を聴きながら、楽譜のリズムや強弱記号をじっくりと見る機会を多く設けるようにする。 ○どのように演奏したいか(音や気持ち等)をワークシートや学習支援アプリに個人で記録させてから、演奏するようにする。 ◎毎時の目標を提示し、児童それぞれが目標達成に向けて分かりやすくなるようにする。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
図工	○知識・技能	○細かい作業や根気強く取り組むことが苦手な児童がおり、進度や技能の個人差がある。 ○新しい材料や用具を基にした発想力を養う必要がある。 ◎意欲的ではあるが、自分で考えて行動することが難しい。	○昨年度、取り扱った材料や用具などを一学期から取り入れ、短時間でも繰り返し扱う場面を増やしていく。 ○友達の作品だけでなく、ICT機器を使った作品鑑賞や、著名な作品の鑑賞を通して、多くの表現方法を学ばせる。 ◎短時間でも達成感を満たせる題材を取り入れたり、思うようにいかなかった時にどんな事をするといいのかという教師の個別支援を丁寧に行ったりしていくことで、意欲が持続できるようにしていく。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		
家庭科	○知識・技能	○調理の技法、裁縫の技能の定着に差がある。 ○自分の生活から問題を見出して、課題を設定する力や生活の中の様々な活動の意図について、問いをもったり、考えたりする力に課題がある。 ◎生活をよりよくしようと工夫したり、生活に生かそうとしたりする態度に課題がある。	○ICT機器や掲示物を活用し、調理や裁縫の手順を提示したり、動画を視聴し実際の方法を見たりして、技能の定着を図っていく。 ○児童が問いを設定するために、自分の生活を振り返る時間や調理や裁縫の必要性を考える時間を十分に設定していく。 ◎家庭生活への関心を高め、学習したことを家庭で実践する機会を作り、実生活に生かせるようにしていく。
	○思考・判断・表現		
	◎主体的に学習に取り組む態度		